

京まち工房



SPRING
情報交流誌

no.

50

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

パートナーシップで進めるまちづくり

次のまちづくりの担い手、学生とまちづくり



京都まちづくり学生コンペ 2009 「京都における近隣型商店街のこれから」

KUAD MIT 共同ワークショップ

有隣・修徳学区の町家パネルが五条大橋に

地域のつながり—歴史と文化 賀茂葵コミュニティ講演会

調査データを一目でわかりやすく! ~GISを用いた京町家まちづくり調査~

住みこなしながら積み重ねていくマンション・コミュニティの工夫 ~北区衣笠学区衣笠グリーンハイツの取組~

第4回あちらこちらにまちの縁側 「障害や年齢を問わず地域と共に活動を」

京のまちづくり史セミナー 歩いて学ぶ京の水③—上賀茂神社と水

まちづくり実践塾 コミュニケーションのきっかけとしてのみどりの可能性

こどもまちづくりセミナー 京都教育大学附属京都小学校との連携の取組

京町家再生セミナー 製材所の見学と焼き杉体験 ~木から見える町家の姿~

町家所有者・居住者の集い 町家で自然素材なワケ ~家をつくる素材の扱い方・使い方~

共催事業 交流セミナー 町家でほっこり 冬の快適省エネ術

京町家まちづくりファンドの取組

京町家と環境学習

京町家保全・再生の事例 コレクティブ京町家「こまちや」

連載コラム番外編 ふっきーの冒険!! ~会津若松の景観フォーラムに参加して~

私と京都 未来の選択

マチ右衛門のつぶやき



京都まちづくり学生コンペ 2009

「京都における近隣型商店街のこれから」

京都のまちの特徴の1つに、大学が多いことがあげられます。将来にわたって京都に住む学生は、京都のまちづくりの担い手として、京都外に住まう人も京都の応援団として、京都のまちにとって大事な人材です。その学生が京都のまちやまちづくりに関心を持つこと。まちを学ぶ中で発想したユニークなアイデアが、地域の活性化に役に立つこと。センターではその2つを柱にして、本年度は、京都商店連盟さんにご協力いただける関係ができ、活性化につなげるアクションが比較的イメージしやすいのではないかということで「京都における近隣型商店街のこれから」というテーマで本コンペを企画しました。

29の提案から受賞者が決まる

昨年10月末の提出締切期限までに、17の商店街に対して29の提案がありました。その後、11月上旬の第一次審査会において上位10提案を選抜し、12月6日にセンターにおいて、その提案学生による公開プレゼンテーション及び第二次審査会を実施しました。公開プレゼンテーションでは、10グループが約8分間、対象とした商店街の特徴をどのように分析したか説明し、提案のセールスポイントをアピールしてもらいました。中には、書道で看板の書体を



プレゼンテーション参加学生の記念撮影

実演したり、建物模型を手に街並みの調和のあり方を訴えたりと、商店街がよくなることを切望して、考え抜かれた熱意がひしひしと感じられました。

それぞれの提案に、各審査員から評価と賛辞が述べられ、特に評価の高かった4点は最優秀賞と優秀賞、他の6点は佳作として表彰されました。



最優秀 奥でつながる～古川町商店街ユースホステル化計画～

コンペのイベントを通じてまちを学ぶ

京都のまちや商店街の現状をレクチャーする「キックオフ・ワークショップ」や、京都三条会商店街にご協力いただき、実際にまちを歩き、商店街の方の生の声を聞き、考える、「フィールドワーク」を実施し、多くの学生に参加いただきました。(京まち工房49号掲載) 違う大学学科の学生同士が一緒にまち歩きをし、「まちを見る視点の違いに刺激を受けた」「今まで素通りすることが多かったが、調べてみると素敵な店や店員さんがいることが分かった」との感想がありました。その後、京都三条会商店街での経験を生かし、対象とした商店街でチームごとに調査をされました。



フィールドワーク

集まったアイデアを地域の活性化につなげたい

企画の柱の2つ目である、地域の活性化につなげることに関しては、公開プレゼンテーションに商店街の方々にもお越しいただき、現場の視点からコメントやアドバイスをいただきました。ご協力いただいた京都商店連盟さんの役員会でも、最優秀と優秀の受賞チームによるプレゼンテーションの機会をいただきました。また、センターにおいて作品展示会を開催して、より多くの方に提案を見ていただき、関心を持っていただけるような場を設けました。その結果、関係者のご協力もあって、いくつかの商店街で展示会を開いていただき、その展示会で提案学生と商店街の方々の意見交換がなされ、その意見交換の中で一緒に提案を具体化しようという声も出ました。実現には調整すべき問題もあると思いますが、実現の際にはご報告したいと思います。



プレゼンテーション

受賞者リスト

	タイトル	対象商店街	グループ名	代表者の所属
最優秀	奥でつながる ～古川町商店街ユースホステル化計画～	古川町商店街	三輪研究室	神戸大学大学院
優秀	僕らの～三条会商店街をふるさとに～	京都三条会商店街	神戸大学建築史研究室	神戸大学
優秀	まちをつくるツミキ ～HORI KAWA community market～	堀川商店街	松 祖	神戸大学大学院
優秀	夜 街 ～夜の商店街を用いてサードプレイスを生み出す～	西新道錦会商店街	大阪大学大学院工学研究科 建築都市環境デザイン学領域	大阪大学大学院
佳作	Gated Market ～街区境界の明確化による古川町商店街の再生～	古川町商店街	京都大学伊従研究室	京都大学大学院
佳作	「ほりかわ」にぎわい計画	堀川商店街	住生活学研究室	京都府立大学大学院
佳作	余所者若者馬鹿者の視点 京都七条商店街	七条商店街	音 書	東京大学大学院
佳作	こむすび	新町商店街	ジャパンダ	神戸大学大学院
佳作	「わたしたち」の商店街 三条会	京都三条会商店街	KNS Upholders	東京大学 大学院
佳作	商店「街(まち)」 ～堀川商店街を中心としたまちの活性化計画～	堀川商店街	高田・神吉研究室2	京都大学大学院

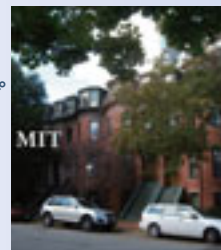
(中島吾郎)

京都・ボストン姉妹都市提携 50 周年記念

京都造形芸術大学・マサチューセッツ工科大学共同ワークショップ

テーマ1：京都中心市街地における袋路再生プロジェクト

テーマ2：ボストン、サウスエンド地区における19世紀のタウンハウスと京都における町家の比較研究



毎年、祇園祭の時期にマサチューセッツ工科大学と、京都造形芸術大学の大学院生が共同で京都市都心部の地域を対象(※1)とした、建築とランドスケープ分野のデザインワークショップを開催しています。(※2)

この約10日の短期ワークショップでは、センターで京都の都市計画、まちづくりの取組、京町家について学び、次に地域のまちづくりに取り組まれている方からレクチャーを受け、地域の現状も考慮したデザイン提案を行っています。

平成21年度は、京都・ボストン姉妹都市提携50周年記念事業の一環として、秋にボストンでも第2弾ワークショップを開催しました。

京町家と同様に、ボストンにも歴史的な都市住宅であるタウンハウスがあります。街並みを保つための厳しい条例があり、現在でも19世紀と変わらない姿で保全されています。ボストンワークショップでは、タウンハウスや街区を実測し、居住者へのヒアリング調査を行いました。

2回のワークショップを通して二都市を比較し、今後の京都の景観保全にとっての課題や展望についてまとめ、展示し、成果発表会を行いました。

成果発表会ではタウンハウスの見習うべき点、行政システム、外観を保存し、室内は時代に応じた変化を受け入れら

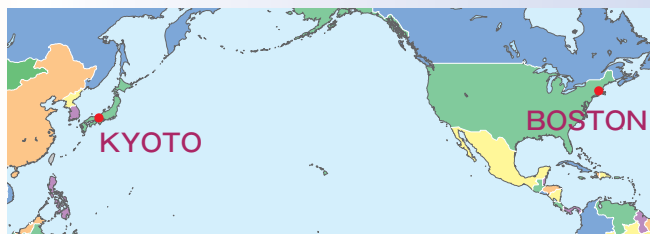
れる構造になっていることなど、様々な報告がありました。

発表会后、学生から「タウンハウスの街並みは欧米で他にもあると感じたが、京町家の街並みは京都にしかないとても貴重なものだとわかった。」との感想を聞き、次世代の担い手達が京都のアイデンティティを感じられた有意義なワークショップであったと感じました。

(木下良枝)

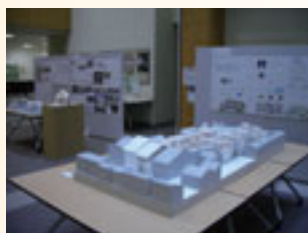


発表する学生



(※1) 対象地域は、その年のテーマや地域のまちづくりの状況によって違います。複数年連続で同じ地域にお世話になることもあります。

(※2) マサチューセッツ工科大学大学院生の選抜学生が休暇を利用して同大学の主催する「日本ワークショップ」に参加しています。京都だけでなく関東などでも同様の短期ワークショップを行っています。



展示の様子

有隣・修徳学区の町名パネルが五条大橋に

京都のまちづくりを学ぼうとする学生を応援するため、センターではコンペの他「学生まちづくりセミナー」を実施しています。

その一環として、京都市立芸術大学とのコラボレーションで、美術学部デザイン科の1回生進級製作として、まちづくりの実践者やセンター職員からのレクチャーをもとにまちづくりに活かせるような作品づくりをしていただきました。本年度のテーマは、『深草トレイル(散策路)観光スポット』で、3月上旬にセンターにて作品展示会を行いました。

平成20年度の『京の町名とその由来』では、題材となった有隣・修徳学区のイベント等で展示されるなど、まちづくりに活かされています。さらに昨年の12月からは五条大橋西側で進んでいる下水道工事の防音壁のデザインにも

採用され、五条通りを行き交う京都内外からの歩行者や運転手にも学生が発信する京都のまちづくりのメッセージが伝わっています。題材にとりあげられた町名の住民からも、「自分のまちの自慢になる」と喜びの声もいただきました。

(田中志敬)



五条大橋のパネルの様子



地域のつながり—歴史と文化

賀茂葵コミュニティ講演会

賀茂葵コミュニティ（京まち工房 48号参照）と京都府立総合資料館の共催で、「地域連携講演会&パネルディスカッション 地域のつながり—歴史と文化」が、11月26日に開催されました。平日にも関わらず、80名をこえるご参加をいただきました。

賀茂別雷神社（上賀茂神社）宮司の田中安比呂氏、総合地球環境学研究所副所長の秋道智彌氏のお二人にご講演いただきました。田中宮司は地域の歴史・文化の原点を担うお立場から、秋道教授は最先端の研究の担い手のお立場から、それぞれにこの地域がいかに多くの魅力を有しているかを語られました。

後半は、京都工芸繊維大学講師の佐々木氏のコーディネートで、上賀茂、下鴨、松ヶ崎それぞれの地域からパネリストをお招きして、オープンディスカッションを行いました。各地域の歴史・文化や現在取り組まれている活動をご紹介いただき、意見交換をしました。これらの地域は、

例えば水を巡る関係など深い関わりを持ちながらも、それぞれに独自の文化を育んできたとのこと。「あまり他の地域のことを知る機会はなかったので、とても興味深かった。今後は交流しながら地域の将来に向けて頑張っていけたらよい。」との思いを共有しました。今後の地域連携の取組の第一歩を踏み出せたのではないかと思います。

（森川宏剛）



オープンディスカッションのようす

平成20年10月から平成22年3月にかけて京都市と立命館大学、センターで実施してきた京町家まちづくり調査。今回の調査では、GISという地理情報システムを用いて分析、プレゼンテーションをしてきました。

調査データを一目でわかりやすく！～GISを用いた京町家まちづくり調査～

飯塚隆藤（立命館大学衣笠総合研究機構・研究員）

立命館大学では、GIS（地理情報システム）を使って、今回の京町家まちづくり調査に取り組んできました。GISを用いることで、どこにどれくらいどのような京町家が存在するのかをコンピュータ上で地図化し、分析することができます。普段は、大学内のコンピュータでGISを使用していますが、京町家調査では、GISを搭載したPDA（携帯情報端末）を利用して、現地で京町家のデータを入力してきました。今回の調査では、このPDAを導入したことで、京町家の入力作業を大幅に短縮できましたし、データの精度が向上しました。私自身、最も驚

いたのは、一日の調査終了後にPDAで入力されたデータをコンピュータ上で表示し、調査員の方々に調査結果のプレゼンテーションをすることが可能になったことです。また、デジタルカメラで撮影された京町家の外観写真を地図とリンクさせて、見るできるようになりました。今では当たり前のように作業していますが、今回の調査が始まる前までは考えられませんでした。モバイル端末の進化は、調査効率の向上にもつながることを感じました。将来的には、各自の携帯電話を使用して、京町家調査をする日が来るかもしれません。

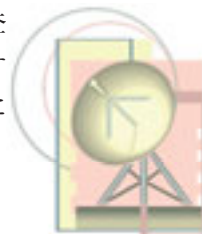
今後、立命館大学では、調査結果を見てすぐにわかるように視覚的な形で地図化し、お世話になった地域の方々に還元していきたいと考えています。さらには、GISによる景観復元や、まちづくりの景観シミュレーションなどにも取り組む予定です。

最後になりますが、今回の調査を通じて、数多くのボランティアの方々と出会い、京町家に対する一人ひとりのかけがえのない思いを感じました。こうして得られた調査結果は、今後の京都市のまちづくりに活かすために、今後も京町家データベースの更新に努めていきます。

※ PDAについては京まち工房 46号を参照。



調査終了後には、このように地図と写真と調査データをわかりやすく表示してプレゼンテーションをしました。



住みこなしながら積み重ねていくマンション・コミュニティの工夫

～北区衣笠学区衣笠グリーンハイツの取組～

衣笠グリーンハイツは、築38年の住戸数143戸のファミリー型の分譲マンションです。京都市内でも屈指の高経年マンションですが、暮らしの中で出てきたニーズに柔軟に対応し、様々な工夫を積み重ねることで、住民同士の顔の見えるマンション・コミュニティを生み出し、良好なマンション管理と自治運営を保ち続けています。今回はその工夫のほんの一部を紹介します。

なお衣笠グリーンハイツは建設当初は立地する町内会に所属していましたが、間もなくマンション独自で自治会を結成し、衣笠自治連合会に所属しています。その後、昭和57年の区分所有法の制定とともに管理組合も結成しています。

工夫の一例としては、子供の会や大人の会、女性の会など、自治会活動での交流が活発に行われているほか、管理組合活動や自治会活動に関する広報紙を年5回以上発行して情報共有を深めています。

他にも建設当初から全住戸の表札、メールボックス、案内板に氏名が出されており、どこに誰が住んでいるかが分かりやすくなっています。また20年ほど前からは各住戸を

内線でつなぎ部屋番号で無料通話ができるようにもしました。さらに2年ほど前からは希望する独居等の高齢者に行う、週一回の安否確認にも活用されているなど、マンション住民の高齢化にも対応されています。また転入者の増加に対応して、15年ほど前からは、区分所有者や賃借人に関わらず新たな入居者には「入居者の手引き書」を渡し、入居者と管理組合役員による挨拶の場を設けるなど、お互いが顔の見える関係になるように工夫をしています。(田中志敬)



お話を伺った、沼田理事長(左)と小島副理事長(右)。集会室の棚には、設立以来のマンションの記録が全て保存されている。

第4回 あちらこちらに「まちの縁側」

誰もが立ち寄れる場、気軽に交流できる場、このような場所がまちの中にぽつぽつと出来てきています。私たちはこれを「まちの縁側」と呼び、地域コミュニティの新しい形として注目しています。

センターでは、これまでシンポジウムやニュースレターで、「まちの縁側」の活動を紹介しましたが、今回、連載記事として、それぞれのまちの縁側主人に活動の紹介をしていただくことにしました。第4回は、中京区朱雀でランチと配食と喫茶の店「ハイ・どうぞ」を運営しておられる特定非営利活動法人「ふれあいほうむ“どうぞ”」理事長の小林敬子さんの登場です。

「障害や年齢を問わず地域と共に活動を」

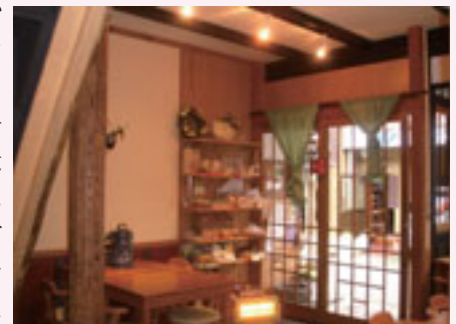
特定非営利活動法人ふれあいほうむ“どうぞ”
理事長 小林敬子

私達ふれあいほうむ“どうぞ”は、1996年に市民互助型の会員制の有償ボランティアグループとして発足しました。生活の中で困った時に助け合えたらいいなという思いで活動してきました。

その後、2005年に、2名の通所者を迎えることから作業所部を開設しました。その中でもっと地域に開かれた場所で障害・年齢を問わず、人のつよさが生かされ、多くの人達がつながり、楽しんで活動できる場所が欲しいとの思いから2006年に配食・ランチ・喫茶の店「ハイ・どうぞ」がスタートしました。

「ハイ・どうぞ」はJR二条駅の西口の一角の町家にあります。地域で働いてられる人や、近くの大学の学生さん達がランチを食べに来て下さいます。

毎日メニューがかわり、玄米か白米を選んでいただけます。おかげさまで午後1時には50食近くが、なくなります。職員や通所者やボランティアさんと力を合わせて活動しています。



家庭的な雰囲気の店内

これからも食を通じて、地域の中に働きかけていくだけでなく、「落語会」や「うたごえ喫茶」などを企画し、より多くの方々の楽しみの場として発信していき、より人の輪が広がっていくことを願っています。そして、私達が一番大切にしている障害者への理解の輪を高めていきたいと思っています。



車椅子も「ハイ・どうぞ」

ランチと配食と喫茶の店「ハイ・どうぞ」

所在地：京都市中京区西ノ京小倉町 22-10

TEL & FAX：075-821-7060

営業時間：11:30～15:00 (日曜・祝日はお休み)

小規模共同作業所 ふれあいほうむ“どうぞ”

所在地：京都市中京区西ノ京永本町 13

TEL & FAX 075-811-5007

<http://www18.ocn.ne.jp/~douzo/index.html>





景観・まちづくり大学2009 開講中！



10月～2月に開催されたセミナーを報告します

京のまちづくり史セミナー (12月19日)

歩いて学ぶ京の水③—上賀茂神社と水

講師：米田裕之氏（上賀茂神社権禰宜）

まち歩きの第三回目となる12月のセミナーでは、世界遺産にも登録されている上賀茂神社（賀茂別雷神社）を舞台に、信仰やその歴史、賀茂祭などについて沢山の興味深いお話をいただきました。今年度のセミナーのテーマである「水」の切り口からは、「後奈良天皇女房奉書」といった文書を引用しながら賀茂川の支配権や祈雨・止雨などについてお話いただきました。

後半の見学では、講師の米田氏の解説付きで境内を特別参拝させていただき、本殿・権殿等社殿の造りや役割について教えていただいた後、受講者の皆さんと一緒に京都市の伝統的建造物群保存地区にも指定されている上賀茂一帯

の社家町を明神川に沿って散策しました。身の引き締まるような寒さの中、より一層の荘厳さを感じつつ賀茂の歴史を学ぶ会となりました。



社殿の特別参拝にて賀茂別雷神大神の由来等の説明を受ける



境内を出て社家町を見学、大田神社に向かう

まちづくり実践塾

(2月13日)

コミュニケーションのきっかけとしてのみどりの可能性【京都市都市緑化協会協働企画】

講師：てらうち桂子氏（シェアリングネーチャー代表 緑化協会花と緑の普及員、米国園芸療法協会認定園芸療法士（HTR）、樹木医）

2月のまち塾では、「みどり」をテーマに意見交換を行いました。講師のてらうち氏からは、園芸に携わったご自身の経験や事例を交えて、「みどり」を媒介として生まれる様々なコミュニケーションやまちづくりでの活用の可能性についてご報告いただきました。まず植物や土に触れることで自然と自分との対話を生み出す。そして、園芸活動を通じて人と人をつなぐ。さらには食育や環境教育、介護予防や防犯、まち並み景観の向上など社会や地域を再構築する力を発揮することを学びました。

参加者も交えた意見交換では、大原で地域の在来種の花



まち塾の様子

を活かしたまちづくりに取り組んでいる方からの質問や、梅小路公園の園芸のボランティアの方や、中京区役所の屋上緑化に携わっている方からの活動のご紹介がありました。

こどもまちづくりセミナー (10月26日、11月2日、11月17日)

京都教育大学附属京都小学校との連携の取組

京都教育大学附属京都小学校6年生は、「政治」の授業で、まちづくりを学び、まちづくりプランを考える勉強にチャレンジしました。

幅広いテーマを含む「政治」中でも、市民のボトムアップの



「子ども議会」で政策を提案



京のまちかで学ぶ子どもたち

まちづくりと行政とのパートナーシップを学び、各生徒さんが自分の住んでいるまちがどうなっていきたいかを考えました。

私達は、市民の活動を支える「ひと・まち交流館 京都」を紹介し、センターや京都市役所の役割を生徒さん達にお話し、まちづくりプランにアドバイスをしました。各まちづくりプランの中で、同様のテーマでグループになり、最後に「政党」としてどのまちづくりプランに皆が一番共感するか、ということも議会のようなものを開かれたのですが、中京景観観光改善党（景光党）や伝党、交通改善党などユニークな政党を作り、何が京都の資源で、何を大切に、どうやったら住みよくなるかを一生懸命考えておられた深い授業だったと思います。

京町家再生セミナー

(11月29日)

製材所の見学と焼き杉体験 ～木から見える町家の姿～

講師：狩野文博氏（京都府建築工業協同組合）
岡田和也氏（㈱岡田材木店）

企画運営：京都府建築工業協同組合、NPO 法人京町家・風の会
運営協力：㈱千本銘木商会

第6回京町家再生セミナーでは、焼き杉の板を作り、その板を使って木工をする中で、参加者の方に、木のこと、町家のことを学んでいただきました。会場として京都では数少なくなった丸太から製材をされている㈱岡田材木店さんの敷地をご提供いただきました。

実際にバーナーを使って木を焼いていくのは最初は皆、おっかなびっくりでしたが、狩野さんのアドバイスの下、一人一枚の焼き杉板を完成させ、思い思いの作品を作られました。

また、大きな町家の模型や、様々な樹種のサンプルを前に、狩野さんから町家と、木について講義していただき、岡田さんのご協力により、真近

で丸太を製材する様子も見学させていただきました。NPO 法人京町家・風の会さんの計らいで、おやつ（その場で焼いたバームクーヘンと焼き芋）もいただき、参加者の方は、頭も心も…おなかもいっぱいになったセミナーでした。



木・町家についての説明



焼き杉づくり



バームクーヘン

町家所有者・居住者の集い (12月13日)

町家で自然素材なワケ ～家をつくる素材の扱い方・使い方～

ゲスト：末川 協氏（末川協建築設計事務所 主宰）
松原斎樹氏（京都府立大学 生命環境科学研究科 教授）

冬も本番の12月の集いは、自然素材で建てられた町家の扱い方・使い方をテーマに実施しました。明治期に建てられた元薬屋さんの町家居住者の方にご協力をいただき、ご主人が丹精こめて手入れをされている美しいお庭に面したお座敷に17名の町家所有者・居住者の方々が集いました。

末川協氏からは町家の建築的な空間特性や素材の特徴、職人さんの技術について、松原斎樹氏からは測定機を使いながら町家の体感温度や心地よさを改善する工夫についてお話をうかがいました。

お話をうかがったあとはポストイットに質問やコメントを記入して、意見交換を行いました。町家に使われている木の



お座敷から見えるお庭の様子



車座になって意見交換

材質など素材についての質問をいただいたほか、「町家のかたむきを直す方法は？」といったご相談も寄せられました。町家の夏・冬の感じ方については「しんどい」「過ごしやすい」と千差万別でしたが、夏は比較的過ごしやすいと感じておられる方が多く、冬の寒さについてはすきま風を防ぐための工夫など、皆さんの暮らしの知恵も寄せられました。

夕方にかけて外は冬らしく気温がさがりましたが室内は参加者の方でにぎわい、冬の寒さも和らぐ温かな座談会となりました。

共催事業 交流セミナー

(1月23日)

町家でほっこり 冬の快適省エネ術

主催：京都省エネ住宅・省エネルギー推進協議会（事務局：京都府地球温暖化防止活動推進センター）
共催：財団法人京都市景観・まちづくりセンター

事例報告 杉本歌子氏（住まい手・財団法人奈良屋記念杉本家保存会）
高井奈津子氏（住まい手・まちぐらし集団 CHOBO メンバー）
近田智也氏（住まい手）
末川協氏（建築家）
井上誠二氏（建都住宅販売株式会社・工務店）
コーディネーター 松原斎樹氏（京都府立大学教授）
コメンテーター 岩前篤氏（近畿大学教授）

最近、エコの観点からも注目されてきた町家。しかし冬の暮らしは、「底冷えやすきま風で大変」という声もよく聞きます。今回の交流セミナーでは、住まい手や施工者・専門家の方々から「ほっこり」をキーワードに、たくさんのお話を聞くことができました。

町家を受け継がれた杉本氏は、「障子に映る木漏れ日など、四季おりおりに自然から与えられる豊かさ」や、「がまんではなく、楽しんで工夫して暮らしていること」を語られ、高井氏は、「湯たんぽや銭湯の利用などのご自身の生活」を楽しく語ってくださいました。奈良の町家にお住まいの近田氏からは「自宅の温熱環境の測定や、高断熱・高気密の住宅とは違う町家の温度変化の特徴、床暖房設置の改修、カーテンでの断熱の工夫」を、井上氏からは「会社でのエコの取組や、町家の快適性の追求と長く住み続けるための工夫」を紹介していただき、末川氏からは「本

来の町家の姿に戻しつつ、木の建具に工夫をこらしたり、床等の素材（樹種）

によって、暖かく感じたりできること」を教えていただきました。

会場からの質問や意見も飛び交う中で、岩前先生からは、「暖房と採暖、町家と町家風を区別する必要性」、松原先生からは、「単に暖かく住もうためだけの技術や設備を検討するより、自分の価値観に合わせて、暮らしをどう設定するかが重要であり、選択肢をきちんと学び、認め合うことが大切」と教えていただきました。

住まい手の方の全員から、「楽しんでいる」という言葉が聞かれました。「ほっこり」するためには、「楽しむ」ということが近道なのかもしれません。「町家は完成された建物であり、その形、有り様には全て意味がある。その町家にとって負担にならないよう、建物の声に耳を傾けながら、工夫をして暮らしている」と話された杉本さんのお話が印象的でした。町家に施された様々な先人の知恵を学び、考えることが、町家暮らしで「ほっこり」するポイントなのかもしれません。

(浜谷富美子)



セミナーの様子





京町家まちづくりファンドの取組



改修助成モデル事業 15 件を選定

平成 21 年 9 月 15 日から 11 月 30 日まで募集をしていた改修助成モデル事業では 22 件の応募をいただき、15 件を選定しました。今回は初めてのことが 2 つありました。1 つは、南区や伏見区の京町家を選定されたこと、もう 1 つは、フランス人の方の物件が選定されたことです。エリアの広がりや京町家を大事に思う人が増えたことを本当に実感します。

京町家まちづくりファンドは、寄付で成り立っている基金です。このような人たちを応援していくために、寄付集めをさらに頑張っていかなければいけないと感じています。



改修前 元バーの看板建築

選定例：「グランピエール邸」(下京区)

目の前に鴨川が広がる場所に立地する京町家を改修し、お住まいとして活用されます。京町家に惚れ込み、大事にしていきたいという思いが伝わってきました。フランスのパリでは、まち全体を文化財として残していく方針をとっており、外観を壊すことができないとのこと。日本ではそこまでの強制力を持つ法律はありませんが、実際にこのような強い思いで改修し、住まれ、友人を招き、「京町家 LOVE」の気持ちをもつ人を少しずつ増やしていくことが、私たちが今唯一できることだと実感しました。

京町家まちづくりファンドの取組

「那須邸」(上京区)

数年前、フランスの建築研究者が日本建築に関わる研究のために、那須さんの町家に 2～3 度に渡って 3 カ月ずつ滞在されました。彼の京都大学での研究活動や、「無くなったら、もう京都を訪れない」と町家が失われていくことを嘆いていた事などが町家の価値を見直す契機となり、町家を残していく選択をされたそうです。現在は、裏門通りに並ぶ 3 軒の京町家を借家として活用され、今回、屋根の葺き替えと漆喰の塗り替え、室外機の修景など、町家をよりよく維持していくための改修をされました。この町家には、これまでに、多くの外国の方が住まれ大



改修前 (奥)

変評判が良かったそうです。京都の文化を残し伝え、実感してもらうためには京町家に住んでもらうことが近道なのかもしれません。

(井上和子)



室内のようす



改修後 (手前)



京町家と環境学習



平成 21 年 1 月、京都市は国の「環境モデル都市」に選定され、環境政策の分野からも「木の文化を大切にすまち・京都」のひとつの象徴として「京町家」への関心が向けられ、さまざまな取組が実施されています。

平成 9 年、「地球温暖化防止京都会議 (COP3)」を記念して開設された「京 (みやこ) エコロジーセンター」は環境学習と環境保全活動の拠点として活用されています。本年度は「子どもの京町家体験・エコステリーツアー」と題し、「木に触れる」「自然を大切に」「始末の心」など、京町家の生活の中から得られるものをテーマに「木の文化を大切にすまち」を体感するまち歩きを企画し、8 月に「京町家に隠されたエコの秘密を探し出せ」、2 月に「摩訶不思議路地あーと」を主催されました。

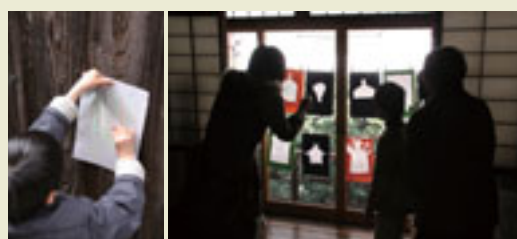
「エコの秘密を探し出せ」では子ども達が写真を片手に鐘馗さんや犬矢来を探し、「路地アート」では探検の途中で木の模様を紙に写し、アート作品に仕上げました。「最近の子ども達は木や自然に触れる機会が少ない。小



8 月 おくどさんの井戸水の冷たさを体験

い頃の触・嗅・味を伴う原体験の蓄積が少なければ、問題が起きた時の選択肢が少なく、想像し、解決ができない人間になってしまう。今、風鈴の音を感じ、座敷で昼寝し、京町家の生活を体験することは、好奇心や想像力、問題意識につながり、やがて人や環境や町家や景観を大切にす行動につながるだろう。」とスタッフの谷内口さん。子どもの頃の体験や物を大切にする優しさは、いつの時代にもつながる大事な心だと改めて思いました。

(井上和子)



2 月 木の模様を写して路地アート作品作成

京町家保全・再生の事例

コレクティブ京町家「こまちや」

「こまちや」(上京区)



「こまちや」外観

上京区の千本新出水、源氏物語では光源氏と朧月夜が出会ったとされる弘徽殿があったという地に、明治期以降に建てられた山中油店所有の十軒長屋が残っています。そのうちの一軒が改修され、「こまちや」と名付けられました。「こまちや」は3名の女子学生が共同で住めるように作られているため、名前は女の子という意味の「小町」と、共に町家で暮らすという意味の「Co町家」に由来するそうです。山中油店の京町家を残したいという思い、伝統技術を伝えながら住み良い家づくりをしている田原工務店、地域まちづくりに積極的に関わっておられる立命館大学の乾研究室の協働が「こまちや」で実現しました。京町家まちづくりファンドも平成21年度の改修モデル事業として応援しています。

改修前の一階はガレージでした。「こまちや」として住居に生まれ変わるまでの過程もユニークです。乾研究室の学生グループ「チームこま



改修前

ち」によって、町家でのルームシェアに対する意識調査、若者が喜ぶデザイン調査が行われました。間取りや設備も山中油店、田原工務店と議論を繰り返して決定しました。工事の過程ではベンガラ塗りも体験されたそうです。そして、入居する方のために「こまちやの住い方」という、周辺地域の情報、共有スペースの管理

や町内とのおつきあいなど町家暮らしのルールをわかりやすく説明したマニュアルも作成されました。他人との共同生活をスムーズにするためのルールは家族への思いやりにも共通するものがあります。

「こまちや」は昔ながらの木の風合い、土壁、ベンガラや柿渋という自然塗料を使うなど、本物にこだわった空間づくりがなされています。外観も京町家の伝統を活かしつつ、虫籠窓には網戸が貼られ、格子戸もセキュリティに配慮するなど、現代の生活に合った工夫が施されています。女子学生の視点からの空間づくりと大工さんの経験と技術のコラボレーションです。

京都市内の京町家を取り巻く現況は、保全・再生の活動がある一方、空き家、老朽化、修復費が工面できない状況、相続税などの維持費が増大している現実もあります。山中油店の浅原さんは京都の景観を維持するため、京町家の保存に貢献したいという思いと、事業者としての収益性を迫られる中で、京町家を維持管理する手法を模索してこられました。そこで、「こまちや」を共同住宅として三者に貸すことにより、一者に貸すよりも家賃収入を見込め、約10年で改修費を回収できるという見通しがあれば、ビジネスモデルとしても成り立つと計画されました。現代の若者が心地よく住まえる空間に長屋を改修することで、学生住居の需要に対応し、新たな活用を生み出すことにも繋がります。さらに、若者が地域に移り住むことで、地域の活性化にも波及効果も期待できるでしょう。

「こまちや」で新しい出会いが生まれ、小町達の和やかな暮らしが育まれることを楽しみにしています。

(西井明里)



十軒長屋 左が「こまちや」



平安建材株式会社

社団法人京都市観光協会
KYOTO CITY TOURISM ASSOCIATION

ローム株式会社

社団法人
京都府建築士事務所協会



連載コラム番外編 ふっきーの冒険!!

～会津若松の景観フォーラムに参加して～

平成 21 年 11 月 20 日、福島県会津若松市で開催された「会津若松市景観フォーラム」において京都市の新景観政策の仕組や内容、当センターの役割や活動等を報告するため、初めて会津若松市を訪れる機会を得た。そこで今回は、会津若松市についての感想などを少し紹介させていただこうと思う。

会津若松市は、歴史的に京都と深い縁がある。京都は平安遷都以前から山背の国として古代史に登場するが、会津もまた、崇神天皇の御代に北陸地方に派遣された大毘古命と、東海地方に派遣された建渟川別命が合流した地「相津」として登場する。幕末には、会津松平藩九代藩主の松平容保が京都守護職として京都に滞在した。また、地形的にも周囲を山並みに囲まれた盆地景であり、どこか「ほっ」とする雰囲気漂う都市である。



会津若松市の景観を切り口としたまちづくりへの具体的な取組は、昭和 61 年 3 月の「長期総合計画」に都市景観対策を位置付けたことに始まる。その後、数々のプロジェクトによる検討を重ね、平成 4 年 3 月に独自の景観条例（「会津若松市景観条例」）を制定した後、本格的な景観行政が進められていくのであるが、その条例の内容も然ることながら、何より条例を積極的に運用しようとしている気概が素晴らしい。

例えば、その条例には景観協定地区制度が設けられているが、平成 7 年 7 月に 2 地区を認定したことを皮切りにその増進に努め、現在では 12 の協定地区を数える。この協定地区の拡大と地区内の建築物（すべてが協定に合意したものではない。）の修景への啓発・誘導に、決して多くない人員体制の中で担当者は走り回っている。

単体の歴史的建造物に対しては、「歴史的景観指定建造物」という制度が設けられており、平成 21 年末で 33 件が指定されている。また、その指定候補となるような建造物に対する登録制度もあり、現在 88 件の建造物が登録を受けている。

京都市には、景観法を駆使して創った制度・仕組があるにも拘わらずまだ活用できていないいくつかのツールがある。景観重要樹木の指定もその一つである。

会津若松市の先の条例には、「歴史的景観指定建造物」と同様の仕組で「自然景観指定緑地」という制度が組み込まれており、庭園や樹林或いは一本の樹木を対象に指定し、その保全に努めている。現在 31 件の指定樹木等があり、登録も 50 件を数えるという。会津若松市の若き担当者は、「会津若松市は周囲を山に囲まれていることから緑が多いように思われがちであるが、都心部には緑が少ない。なんとか緑を増やしたい。」と真剣に語る。京都の都心部も緑は少ない。景観重要樹木の

指定制度を取り入れている京都市としては大いにこの制度の活用を図るべきであろう。

質実剛健を座右の銘としている私は、会津若松と聞くと真っ



茶室麟閣
千利休の子、千少庵が利休亡き後、蒲生氏郷に保護されていた時に鶴ヶ城本丸内に建てたものとされる。

先に白虎隊や鶴ヶ城、そして城に立て籠もった数多の老若男女の奮闘の状況が過去に読んだ書物などを通して思い浮かぶのであるが、それに加えて著名な文学者や医学者などの生誕或いは縁の地が其処彼処に存在し、文武両道の気風を改めて感じ

取ることができる。

また、この都市には酒蔵も多く、酒蔵など多くの蔵建築が歴史的景観指定建造物として指定され保全、活用されている。その一つが「会州一蔵」で、参勤交代の行列が通ったという街道に面して保全されており、



会州一蔵 江戸期建築の酒蔵。

現在では喫茶、地酒販売店舗、ギャラリーとして活用されている。

戊辰戦争の戦火を免れた江戸期の建物を含め近世から近代、現代にかけての歴史遺産が多く、その保全活動も官民一体となって熱意をもって取り組まれている。是非とも調査、研究を目的に改めて訪れてみたい都市である。

今回のフォーラムは、平成 21 年 3 月に景観行政団体となった会津若松市が、今後景観法に基づく種々の取組を進めていくに当たって他都市の取組に学ぶ、というサブテーマだったようだが、今回いろいろ話を聞かせていただいて、学ぶべきは吾が身に多かった。教えられることに終わりはなくつくづく思う。

今回お世話になった会津若松市の都市計画課の人たちも若く、部長さんを筆頭とした組織のチームワークも良く、限らないエネルギーを感じた。今年の 2 月に入って、来年度に向けて現在の景観条例の改正を行っていくと聞いた。いよいよ景観行政団体となった取組が本格的に始動したのかと胸の高鳴りを覚える。いろいろ課題はあるであろうが、これからの会津若松市の景観まちづくりへの取組にエールを送り注目していきたい。



阿弥陀寺の御三階
文政元年（1818年）以前の木造3階建。明治3年に鶴ヶ城から移設。



旧正宗三匠堂（さざえ堂）
江戸時代中期の仏堂。内部が螺旋状になっていて同じところを通らずに見物できる世界的にも珍しい構造。国重要文化財。

私と京都



NPO 地域環境デザイン研究所 ecotone

代表理事 **太田 航平**

未来の選択

「京都で学生生活を送りたい!」と思い至った1997年、高校2年の冬。『地球温暖化防止京都会議 (COP 3)』に東京からNGOの一員として10日間オブザーバー参加したことが、私の人生を大きく動かした。東京では感じられない、歴史や文化が育んだ空気感が妙に気になり、「環境」というキーワード一つを胸に選択した京都生活であった。

環境問題の深刻化にともなう、資源の制約が必要となってきたことはすでに周知の事実である。利便性や効率性などを高める選択肢から、「持続可能性」などをキーワードとする新たな概念や価値を必要とするライフスタイルへの転換やまちづくりを急速に進めることが求められている。

京都に住み、楽しみにしていた初めての祇園祭。宵々々山から青山にかけての歩行

者天国で、その散乱ごみの多さや、歩行者天国終了後に山積みされる屋台ごみの多さに目を疑ったことは今も忘れられない。現在は分別回収などが徹底され状況は大きく改善されてきたが、他のお祭りやイベントなどでも同様に、短い時間の中で排出される大量の廃棄物、特に使い捨て容器に頭を悩ませているのが現状である。ここにしっかりと「環境の視点」を落とし込む必要性を強く感じている。

そこで私は、「リデュース (発生抑制)」「リユース (再使用)」をキーワードに、何度も洗って繰り返し使用出来る「リユース食器」を用いた地球温暖化防止やごみ減量の仕組みづくりにこれまで取り組んできた。京都ではこの仕組みが新たな選択肢として定着し、お祭りやイベントの具体的なごみ減量につながっていることはとても感慨深い。また、本取り組みは全国に広がり、京都モデルとして注目されるようになった。



リユース食器でお祭りを楽しんでいます!

この仕組みづくりの過程では、市民のみならず、事業者や行政などとのしっかりと「協働」があった。新たな概念や価値を創造する上で、多様な主体が集まり、知恵を持ち寄り、自分が出来ることを責任持って果たすことは創造的でとても楽しいことである。古くて新しい文化がしっかり息づいている京都だからこそ、ストーリーある発想がカタチになる。

今、我々に求められているのは、モノの

カタチだけに捕われて選択するのではなく、その裏にある情報をしっかり読み解くことである。日々さまざまな選択を強いられ生きている中で、環境問題に対して取り組める身近な活動だ。

京都に住んで12年を迎えた。学生時代から長らく味のある築80年を超えた京町家に友人4人と共同生活を送り、結婚してもお隣さんとお付き合いを楽しみに別の町家に住み続ける中で、地元東京にはない豊かなコミュニケーションと関係性が自分を成長させてくれていると日々実感する。

顔の見えるちょうど良い規模のまちで、多くの方々に支えられながら、「環境」をキーワードにさまざまなことへチャレンジ出来るここ京都。高校時代のあの時の選択はやっぱり間違っただけではない。



野外で使用出来るよう改造した業務用食器洗浄機を積んでお祭りに出張します!

NPO 法人 地域環境デザイン研究所 ecotone

〒604-8821

京都市中京区壬生柳ノ宮町9-13 HAJIME BLD.

TEL 075-205-1433 FAX 075-205-1434

MAIL: info@ecotone.jp

WEB: <http://www.ecotone.jp/>

平成21年度賛助会員 敬称略 (五十音順)

H22年2月末現在

相原 満	上杉 茂	桂 豊	桑原 秀喜	新喜 富雄	谷口 容造	中山 雅永	藤田 昌也	森 広士
青木 巖	上田 萌子	加藤 昭	小泉 光太郎	杉浦 伸一	谷口 功尚	西澤 亨	藤本 春治	森岡 早苗
青木 正文	上原 智子	上久保 聡子	合田 有作	杉本 憲二	坪田 耕一	西澤 孝子	松橋 律夫	森田 弘之
青木 義照	江籠 義貞	神谷 宗宏	小杉 貴子	寿崎 かつみ	寺田 恵子	西嶋 淳	古川 幸隆	柳原 博實
秋山 正俊	江田 頼宣	亀井 孝郎	後藤 元毓	鈴木 知史	寺田 敏紀	西島 篤行	平家 直美	山岡 伸二郎
朝倉 真一	大井 康光	川上 輝夫	小西 操	炭崎 勉	寺本 健三	西嶋 直和	星川 茂一	山岸 豊
足立 和康	大岸 薫	川口 浩	小林 正純	関岡 孝緒	徳永 博己	西邑 昭裕	星野 民嗣	山田 昌次
天利 義一	大島 仁	河崎 尚志	酒井 英一	園 孝裕	富家 裕久	西村 健	堀野 欣哉	山田 宏隆
荒金 博美	大関 法子	河邊 聰	坂本 正寿	醍醐 孝典	富山 育子	能勢 舞	本田 徹	山本 耕治
石川 貴洋	大谷 孝彦	上林 研二	坂本 登	高川 祐子	内藤 郁子	畑 正一郎	前田 徹	山本 一博
石田 光暲	岡崎 篤行	上林 隆	相良 昌世	高木 勝英	中川 慶子	旗 哲也	松井 浩一	山本 茂
石原 一彦	岡田 圭司	木上 貴夫	佐倉 正光	高木 伸人	中沢 洋雄	馬場 美彦	松田 彰	湯浅 博央
石原 哲夫	岡野 哲也	岸田 幹男	佐藤 七重	高木 和代	中沢 貴彦	濱田 滋	松村 光洋	文彦 文彦
石原 久子	岡本 秀巳	北川 秀樹	佐藤 友一	高谷 基彦	中島 吾郎	早崎 真魚	松本 正	横山 経治
石本 智子	岡本 正二	北川 洋一	佐藤 洋	武井 政石	中島 弘益	林 建志	丸本 英俊	吉田 純
石本 幸良	岡本 尚義	北川 チエ子	真田 松寿	竹綱 さつき	長瀬 弘	林 道弘	丸本 治	吉田 真由美
糸井 恒夫	奥 美里	来海 賢一	澤 典子	竹林 哲	中谷 弘	東野 嘉之	三島 時夫	吉永 順子
稲石 勝之	奥田 隆司	木村 忠紀	柴崎 孝之	田中 理世	中司 小百合	平竹 洋子	水田 雅博	吉永 順子
稲波 良幸	奥山 脩二	木村 真紀子	島崎 耕一	田中 靖啓	中西 努	広瀬 綾	水野 歌夕	米谷 朋恵
犬伏 真	押谷 昌成	桐澤 孝男	島田 和明	田中 良平	仲西 弘樹	吹上 裕久	溝上 省二	和田 豊志
今富 僚二	景山 良一	栗山 裕子	清水 博之	田辺 真人	中村 伸之	福島 貞道	三村 浩史	
岩崎 清	笠岡 英次	黒木 省二	下坊 泰男	多見 貞子	中村 忠夫	福島 正俊	宮本 日佐美	その他の皆さま
岩崎 巨男	賀長 浩絵	桑原 尚史	上代 眞廣	谷口 一郎	中村 有希	福林 文孝	元持 清	

奥谷繁礼建築研究所
大阪ガス株式会社
オムロン株式会社
京都駅ビル開発 株式会社
社団法人京都市観光協会
学校法人瓜生山学園 京都造形芸術大学
社団法人京都府建築士事務所協会
株式会社くろくち

NPO 法人京滋マンション管理対策協議会
現代京都市型住居研究会
NPO 法人古材文化の会
佐川急便株式会社
株式会社ジェイアール西日本伊勢丹
修徳自治連合会
株式会社ゼロ・コーポレーション
一般社団法人相親相談センター

都市居住推進研究会
株式会社地域計画建築研究所
財団法人手織技術振興財団公益事業部織成館
(株)八清 (ハチセ)
株式会社フラットエージェンシー
平安建村株式会社
NPO 法人マンションセンター京都
ミサワホーム近畿(株)

六原学区自治連合会
立命館大学歴史都市防災センター
(株)ローバー都市建築事務所
ローム株式会社
有隣自治連合会

こうしてまちを造るには、我がまちと町内を
しっかりと結びつけたらいい。



会費は京まち工房の作成や地域活まちづくり活動支援、京町家保全・再生の取組などに活用させていただきます。

センターからのお知らせ

ホームページリニューアル

センターのホームページがさらに便利になります!! 情報発信や情報収集にご活用ください。

まちセンコミュニティFM放送



まちづくりチョビット推進室の放送枠をお借りして2カ月に1回の企画放送。

京都三条ラジオカフェ (FM79.7MHz)

放送 第二、第四土曜日の15:30～16:00
第二、第四日曜日の7:00～7:30

▼過去の放送分はこちらでお楽しみいただけます。

<http://www.kohsei-const.co.jp/chobitto/chobitto.html>

平成22年度賛助会員の募集

センターでは平成22年度の賛助会員を募集しています。京都のまちづくりを応援したい!

センターの活動を応援したい! そんなあなたの熱意をお待ちしています。

特典: ニュースレター (季刊) の送付、冊子等センター発行物の割引等、セミナー・シンポジウムのご優待、他。

年会費: 個人1口: 5千円/団体1口: 5万円

京都クレジットサービス株式会社との連携により、個人賛助会員向けのゴールドカードの取扱いをしています。賛助会員の特典に加え、ゴールドカードならではの特典をご利用いただくことができ、お買いものをされると、京町家まちづくりファンドへ一部募金されます。詳しくはセンター窓口、又はホームページをご覧ください。

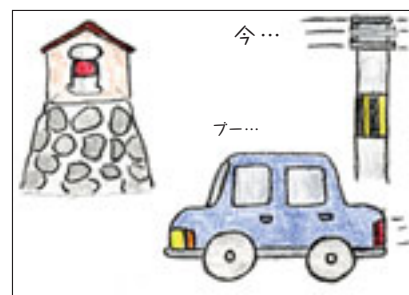


マチ右衛門のつぶやき

皆さん健康に良いことしてますか? 私は毎年出ている学区の運動会のリレーで足がもつれて思いっきり転んだのをきっかけに、休みの日の朝にジョギングをするようになりました。今年で4年目になります。朝、家を出発し、車の少ない道を選んでK公園まで約30分走ります。K公園には300mのジョギングコースと鉄棒など9種類の健康器具が備え付けられていて運動するにはもってこいの公園です。そこで軽く体を動かし、暖かい日には公園内の清々しい空気と緑に包まれ日向ぼっこをして帰ります。朝は人も少なくリラックスできてとても贅沢な気分です。最初は体の健康のためと思って始めたのが、今では心の健康のため欠かすことのできない楽

しみになっています。

ジョギングのコースは飽きないように幾つかのコースを決めていてその日の気分で走ります。毎週走りながらまちを見ていると色々なことに気付きます。最近仕事柄が空家や空き地が目につきます。「売家」と書かれた看板が貼られた家を見ると、「どんな家族が住まわれていたのだろう?」「どうして売りに出されたのだろう?」と色々想像してしまいます。一軒の家には家族の想いや歴史が詰まっています。家族がいなくなった空家を見ていると取り残されたようで何となく悲しそうな表情に見えてきます。最近自分の家をとて愛おしく思えるようになったのも仕事柄でしょうか・・・。(F.H.)

京兎物語 ペンネーム ひこ

センター活動拠点のご案内

京都市景観・まちづくりセンター
〒600-8127

京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町
83番地の1 (河原町五条下る東側)

「ひと・まち交流館 京都」地下1階

TEL 075-354-8701

FAX 075-354-8704

e-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp

HP: <http://machi.hitomachi-kyoto.jp>

●開館日 (相談の受付等)

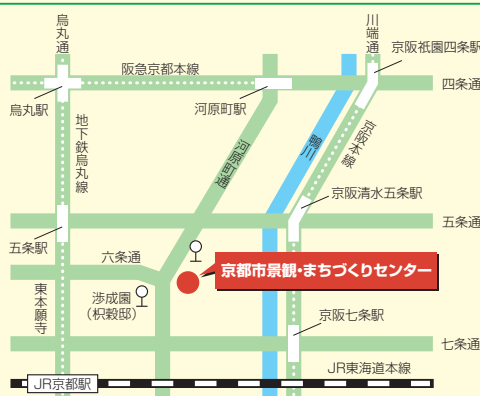
9:00～21:30 (月曜日～土曜日)

9:00～17:00 (日曜日・祝日)

●休館日

毎月第3火曜日 (国民の祝日に当たるときは翌日)
年末年始 (12月29日～1月4日)

なお、センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



●交通系統

◆市バス 4・17・205号系統「河原町正面」下車

◆京阪電車「清水五条」下車 徒歩8分

◆地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩10分

◆立体駐車場

最初の1時間400円、以後30分ごとに200円

(財)京都市景観・まちづくりセンターは
環境負荷低減に努めています。

